

令和5年度第1回霧島市環境対策審議会 会議録（要旨）

項目	内容
開催日時	令和5年3月21日（木）10：00～11：25
開催場所	国分シビックセンター行政棟3階 庁議室
内容	霧島市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）案に係る諮問
出席委員	村尾会長、石窪委員、辻委員、浜本委員、山元委員、船間委員代理、前之園委員、安田委員、惣田委員、中村委員
事務局	有満市民環境部長 環境衛生課：山本主幹、鬼塚 SL

◆霧島市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）案に係る諮問

【答申の方向性】

本日の審議会の意見を踏まえ、令和6年度第1回霧島市環境対策審議会（令和6年5月中旬開催予定）での意見を取りまとめて答申する。

【委員意見】

☞実行計画本冊関係

- ① 霧島市の地域特性である地熱発電については、自然環境の保全と温泉との共存共栄をしっかりと図った上で進めていただきたい。
- ② 国内の動向については、GX（グリーントランスフォーメーション）に関する説明も加えていただきたい。（P10 下段の空きスペース等）
- ③ P42 の説明について、太陽光発電の導入のみ「メリット」と書かれており、デメリットもある中でメリットのみを強調することは避けるべきと考える。
- ④ P45 にゼロカーボンアクション30が紹介されているが、環境省は新たな環境対策の国民運動として「デコ活」を提唱しているため、こちらを紹介すべきではないか。
- ⑤ P44 の ZEB・ZEH に関する図の定義と内容が逆になっている。
- ⑥ 脱炭素を進める上での近隣市町との連携に関する内容があってもいいと考える。
- ⑦ KIDS 概要版だけでなく、市民向けにも概要版を作成いただきたい。
- ⑧ 太陽熱と太陽光の違いが分かりづらいため、明確な区分が必要である。また、太陽熱、地中熱のほかにも温泉熱の利用も可能であるため、書くべきだと考える。
- ⑨ 地域の一次産業がどういった分野で役に立っているなどの紹介も入れていただきたい。（P40 下段の空きスペース等）

## ☞KIDS 概要版関係

- ① KIDS 概要版について、SDGs に関する掲載があれば、小学校の授業でも活用しやすいのではなか。また、意欲ある子ども達のために、QRコードでさらに詳しい情報が得られるような工夫をしていただきたい。
- ② KIDS 概要版については、全国どこでも共通する内容となっているため、霧島市内にある再エネ（地熱発電や河川での水力発電）や広大な森林がどれくらいCO<sub>2</sub>を吸収しているのかなど、地域ならではの情報を子供たちに伝えるような工夫をしていただきたい。
- ③ 霧島市内で生産された物を買うこと（地産地消）と、市外で生産された物を買うことによる温室効果ガスの排出の違いを示すなど、自分たちの生活スタイルによって変わるということを考えさせるような内容にしていきたい。
- ④ CO<sub>2</sub>は、気体、液体、超臨界状態の形態があり、プールの体積でCO<sub>2</sub>の量を紹介すると誤解が生じる。ガスの体積であれば、風船などを用いたほうが分かりやすいと考える。

## 【質疑応答】

委員：森林吸収量は数値で示されているが、再エネによる削減量は示されていない。

温室効果ガスの削減に寄与するものとして算入できるルールであるか。

事務局：森林吸収量のように数値としては削減量を示していないが、再エネ電気を使用することで、電気の使用に伴う温室効果ガスの排出量が削減されるため、各部門の削減量の内訳として算入している。新たな自家利用の再エネの導入や固定価格買取制度の買取期間が満了した再エネ電気を地域で使用することで、市内の温室効果ガスの削減に寄与することができる。

委員：温室効果ガス排出構成比では運輸部門が1番多くなっているが、市内の運輸がそれほど多いとは感じていない。どのような算出根拠となっているか。

事務局：運輸部門には、家庭の自動車も含まれ、ほかに鉄道や事業用のトラック、タクシーなどがある。霧島市は家庭の自動車保有台数が多く、また、公共交通機関が発展しきれていないことで、自家用自動車での移動距離が多くなり、運輸部門の排出が多くなっている。行政として、充電インフラの整備に率先して取り組むことでEVの導入促進を図り、当該部門の温室効果ガス排出削減に努めたい。

委員：重点施策が七つあるが、7地区を別々で実施する考えか。

事務局：霧島市の目指す将来像は全ての地区に当てはまるものであり、重点施策は各地区の特徴を踏まえて、モデル的に取組を進めていき、最終的に全地区に波及させる考え。

以上